

人生を楽に生きるためのメッセージを箸蔵寺のご住職に伺いました。

人生 応援 メッセージ

企画・制作／徳島新聞社営業局

人と関わるといふことは、必ずしも楽しいことばかりではありません。普段は大切な夫婦や親子、友人の間でさえも、いらだつことや我慢できないこともあります。その結果、ぶつかり合うこともあるでしょう。しかし、本当に大切な関係なら、それつきりになってしまいうわけにはいきません。時が経ち、また穏やかに向き合いたいと思った時、「言い過ぎた、やり過ぎた」と後悔しないためには、どのようなことに気をつければ良いのでしょうか。

そのような時、私は「取り返し」のつかないことをしてしまった」という言葉に含まれる「取り返し」という言葉を基準にしています。今の子どもたちには、「リセット」という言葉の方がしっくりくるのかも知れません。しかし、心まではリセットできません。同じ時は二度とは繰り返せませんので、一度吐いた言葉や、一度行ったことは消えません。「取り返し」とは、過去を無かったことにするのではなく、**過去を受け止めた上で、今までを取り戻すこと**だと考えています。

相手を殺（あや）めてしまった場合は、もちろん取り返しがつきません。傷を負わせてしまった場合も、よほどのことがない限り元どおりにはなりません。身体だけではなく、心に傷を負わせるような言葉を吐いてしまった場合でも同様です。また、一時の感情にまかせてインターネット上の掲示板やSNSなどに悪口や個人情報を書き込んだ場合、後で「なかったこと」にしたくても、もはや自分ではどうすることもできない所まで進んでしまっています。これも取り返しのつかないことです。それ以外にも、感情にまかせた行動や、一時の誘惑や好奇心に流された行動など、他の様々な行動も、取り返しという基準に照らし合わせてみれば、自ずと答えが出てくるはずですよ。

誰かと意見を交わしたり、気持ちをぶつけ合うということは、お互いを理解するためには大切なことです。例えば、その中でいさかいが生じてもお互いが取り返しに気を配り、思いやりを持って接すれば、必ず関係は修復できるはずですよ。そして、その先にあるものは、「**お互いを赦（ゆる）し合う心**」です。残念ながら、権利のみが強調されている今の世の中、先に赦した方が損をすることがあるかもしれません。また、相手との信頼関係が生まれていなければ、喧嘩になった時、自分だけが赦しても相手の方が赦してくれないこともあるかも知れません。しかし、この様な時代だからこそ、「赦し」の心が必要とされていると感じます。**赦されたことのない人は、赦さない人に育ちます。**

そして、赦さない人は赦さない子を育てます。人は一人では生きていけない以上、「**赦さない**」の先にあるものは孤独です。そうならぬよう、思いやりを持ち取り返しのつく関係を築き、相手を赦し合える心豊かな日々を過ごしていききたいものです。

筆者ご紹介

真言宗御室派別格本山
箸蔵寺 第六十四世住職
さとう せいじん
佐藤 盛仁氏

【略歴】北海道大学経済学部
経済学科卒業・総本山仁和寺内仁和密教学
院卒業。高野山大学院修士課程密教学科修
了。箸蔵寺に入山の後、徳島県教育委員会の
委員、委員長を歴任。他にも多数のキャリア教
育関連の講演実績があります。

・箸蔵寺公式サイト <http://www.hashikura.or.jp/>
・ブログ「法爾自然」 <http://www.hashikura.or.jp/blog/>

皆さまの ご感想を お待ちしております!



この紙面に対する感想や取り上げてほしい内容などがありましたら、お気軽にお寄せください。郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号をご記入の上、〒770-8572徳島新聞社営業局営業部「人生応援メッセージ」係までお送りください。

※お送りいただいた方の個人情報は、当社で厳重に管理し、ご本人の同意なしに第三者に開示、提供することはありません。

